「マーケットの浅読み・深読み」
発行・編集：FXニュースレター　　執筆担当：斎藤登美夫

▼▲▼

◇◆◇　No.0898　◇◆◇　　26/07/08

【　今年は「歴史的」な小変動!?　足もと 7 月が正念場に　】

すでに終了している 6 月相場は、月間変動 3.37 円（159.30-162.67 円）となった。前月の同 4.60 円を下回っただけでなく、2022 年 2 月（同 2.18 円）以来の月間小変動を記録したことになる。
当レターでは、事あるごとに「今年のドル/円相場の動意は鈍い」－－と指摘し続けてきたが、いまだ改善の兆しは見られない。そして、これも別途当レターで取り上げている話だが、為替市場は下半期以降少しずつ、それも年の瀬が近付けば近づくほど動きが鈍くなるという傾向がある。そうした視点に立てば、足もとの 7 月から 8 月の動意はまさに正念場か。「2026 年」相場が歴史的な小変動をたどってしまうか否かの分岐点という気もしないではない。

◎近年は「よく動く 7 月」パターン多いが果たして!?

恒例となっている月間の見通しを指摘する前に、まず過去の 7 月ドル/円相場星取表をみてみると、1990 年以降昨年までの 36 年間はなんと 18 勝 18 敗。ちょうど五分の内容で、方向性としてどちらが有利ということはないようだ。
ただし、2020 年以降 2024 年までという比較的直近の 4 年だけに限れば、すべて「ドル安・円高」へと振れていた（昨年は逆方向の「ドル高・円安」）。覚えておいて損はない気もしている。

そんな 7 月のドル/円相場を、別の観点から見た場合、ひとつ興味深い事象がうかがえる。それは参加者が徐々にサマーバカンス入りするため流動性が乏しくなることもあってか、過去の 7 月相場は「動くか動かないか比較的極端な値動きをたどることが多い」－－ということだろう。
もちろん動かないパターンも決して少なくはないのだが、近年は逆に「動く 7 月相場」のパターンが優勢となっている感がある。その典型は一昨年の 2024 年で、月間を通して実に 12.35 円（149.61-161.96 円）の変動を記録していた。もちろん、同年の月間変動としてはダントツの 1 位となる。また、昨 2025 年も変動幅は 8.15 円（142.69-150.84 円）で年間変動では 2 位だった。先でも取り上げたように、前 6 月の変動が今年最小を記録したことからすると、今年は「その反動」を期待したいところだが、果たして如何に。

一方、材料から考えた場合、足もとの 7 月は月末最後に、注目の日銀会合が予定されているところが気になるところだ。
先週 1 日付の当レターで、6 月会合の結果やその後の日本政府サイドの対応などを踏まえ、7 月の日銀会合は「とくに要注意」とレポートしたが、まさにそれにあたる。さらに、前回は指摘しなかったが、今 7 月会合では 3 ヵ月に一度の「展望レポート（経済・物価情勢の展望）」も同時に発表される見通しでこちらも気掛かり。「展望レポート」は、先々の経済見通しを詳細に提示したもので、日銀委員の考え方などが通常よりもよりわかりやすく示されていると言えるかもしれない。よって、その内容如何では、相場の波乱要因となる可能性を十二分に秘めているとも言えそうだ。

最後にニュースの観点から過去の 7 月を見ると、ひとつ興味深いのが為替あるいは金融に関する重要な事象が決して少なくないこと。幾つか例を挙げると、「米国の通貨が『ドル』に決定（1785 年）」や「NZ外為市場閉鎖（1984 年）」、「リラ暴落でイタリア市場が一時閉鎖（1985 年）」、「アジア通貨危機がはじまる（1997 年）」－－などとなる。
また金融関係以外でも、別に「米国が英国からの独立を宣言（1776 年）」や「ウォーターゲート事件でニクソン大統領の弾劾可決（1974 年）」、「ロッキード事件で田中前首相逮捕（1976 年）」など、歴史的に重要な出来事が相次いでいた。

さらに、昨 2025 年 7 月の主な出来事を振り返ると、国際情勢としては「10 月下旬にトランプ米大統領の立会いのもと和平に向けた共同宣言署名」が発出されたキッカケになった「タイとカンボジアの国境地帯で両軍が交戦（24 日）」が起こったことぐらい。
しかし、日本絡みの事象としては「参院選が実施され、自民党と公明党の与党が歴史的な大惨敗（22 日）」、「税率 15%で日米関税交渉が合意（22 日）」－－などと、かなり重要な出来事が幾つかも観測されていた。さらに興味深いのは文化的な側面で、「王谷晶さんの『ババヤガの夜』が英国の権威ある文学賞

『ダガー賞』を受賞（3 日）」、「第 173 回芥川・直木賞は 27 年ぶりとなる『該当作なし』に（16 日）」ーー。昨年を参考にすれば、前述した月末の日銀会合を筆頭に、今 7 月は日本に関するニュースが意外に要注意という気もしないではないだろう。（了）

▼▲

当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。
なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

◆◇◆ Copyright （C） fx-newsletter limited company All Rights Reserved ◆◇◆

FX-newsletter